



# 教育指導課便り

函館市教育委員会  
学校教育部教育指導課  
平成23年5月31日発行  
VOL. 3

## 特別支援教育支援員の活動

昨年度に続き、50名の特別支援教育支援員が、市内の47の小・中学校で活躍し、各学校の先生方や子どもたちの大きな支えとなっています。その一層の充実に向けて、今年度は年間3回の研修会を予定しています。今回は、5月13日に行った第1回研修会の様子を御紹介します。



亀田小学校と、大川中学校を会場に研修を行いました。会場校の特別支援教育コーディネーターが、自校の特別支援教育の取組について説明した後、小学校では1年生の特別支援学級の算数、中学校は1年生の英語の授業を参観しました。特別支援教育支援員が配慮が必要な児童生徒に寄り添い、適切なタイミングで支援を行っている様子を見ることができました。



午後には、支援の内容の交流を行いました。どの支援の担い手、共通の課題として、1年目の支援の様子も見られました。事例検討会として、「話を聞けない子どもへの支援」について、KJ法を用いて、原因と方策をグループで考える練習を行い、多様な支援の方法について理解を深めました。

支援員が配置されている学校におきましては、教職員との連携のもと、子ども一人一人のニーズに応じたよりよい支援を進めていただきますようお願いいたします。

## シリーズ：言語活動の充実に向けて③

各教科等の特質を踏まえつつ  
国語科との関連を図りながら  
取り組むことが大切です。

### 国語科では・・・

〇言語活動については「国語科で培った能力を基本に」、「国語科との関連を図りながら」取り組むことになります。では、基盤となる言語能力を育てる国語科では・・・

### ☆ 学習過程の明確化と単元ごとの言語活動の位置付けが重要

具体的には、国語科の学習の進め方を子どもに示し、主体的な学習活動が進められるよう留意すること、児童の実態と年間指導計画を踏まえ、「この単元ではどの指導事項を重点的に扱うか」を決め、「指導事項を指導するのにふさわしい言語活動（学習指導要領内容（2）に言語活動例が記載されています。）を選定する」ことが大切になってきます。この単元で、どんな言語能力を身に付けさせるのかというねらいを指導する側が明確にしておくことが大切です。